

黄色ブドウ球菌による乳房炎

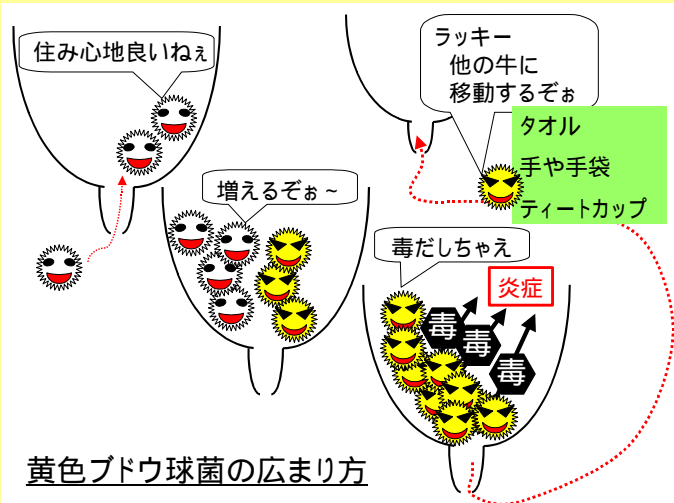
「乳房炎を治療してもなかなか治らない」「治ったと思っても何度も再発してしまう」
「乳房炎の乳は別にしているのにバルクの体細胞数が多い」などの問題を抱える農場には、黄色ブドウ球菌に感染した牛がいるかも知れません！

黄色ブドウ球菌による乳房炎の特徴は？

- 1 治り難い：感染すると乳房の奥深くに入り込むため、薬剤が到達し難い
- 2 伝染する：搾乳者の手、タオル、ミルクカーを介し他の牛に伝染する
- 3 どこにでもいる：もともと牛の体や人の手など、環境中に存在する

どのように伝染するの？

細菌が乳房内に進入、炎症を引き起こす
乳房内で大量に増殖し、乳汁とともに環境中に出される
排出された菌が、搾乳作業などにより他の牛に広まっていく



予防するには？

黄色ブドウ球菌は牛体や搾乳者の手などの環境中に存在し、感染の機会が多いと言えます。乳房炎になってからでは治療が難しく、予防が何より大切です。

- 1 **搾乳作業の見直し**
搾乳手袋の着用、清拭の1頭1布、ポストディッピングの実施
過搾乳に注意するなど、乳頭を痛めない搾乳
- 2 **乳房炎の早期発見**
定期的なPLテストを行い、早期発見・早期治療
- 3 **牛の健康維持に努める**
定期的なビタミン投与、乾燥した牛床と適正な蹄の管理

どうやって見分けるの？

感染していてもすぐに症状を示さないため、知らずに牛群に広がります。乳汁の検査により、早期に感染牛を特定することができます。

1 バルク乳の検査

バルク乳で検出されれば、搾乳牛の中に感染牛がいる可能性がある

2 個体乳の検査

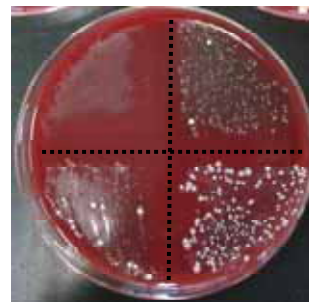
搾乳牛全頭の乳汁を検査し、感染牛を特定する

< 乳汁検査の写真 >

検査培地を4分割し、各分房乳をぬり24時間培養しました



左前の分房乳で、黄色ブドウ球菌のコロニー(菌の塊)が生えています



黄色ブドウ球菌はありませんが、多数の菌に汚染されています

黄色ブドウ球菌が検出されたらどうすればいいの？

< 環境対策 >

- 1 感染牛は隔離し他の牛への感染を防ぐ
- 2 搾乳作業を区別する

感染牛は一番最後に搾乳する。タオル、バケツなどの搾乳用具は別に！

< 治療 >

- 1 症状が見られない場合

感染初期なら泌乳期治療も可能。早めに乾乳して乾乳期治療を行うのが効果的。

- 2 症状が見られる場合

治療が難しいため、盲乳・淘汰を検討。乾乳期治療で効果がある場合も。

治療に関しては、かかりつけ獣医師に相談しましょう